

中国2017年の経済成長目標は6.5%前後に

◆第12期全国人民代表大会第5回会議で6.5%前後のGDP目標数値を承認

全人代で政府活動報告に盛り込まれた2017年の国内総生産（GDP）の目標成長率は6.5%前後（16年目標：6.5～7%、16年実績6.7%）で承認された。17年の計画では、消費者物価上昇率を3%前後（同目標3%、同実績2%）とし、都市部新規就業者数1,100万人以上（同目標1,000万人、同実績1,314万人）、失業率4.5%以内（同目標4.5%以内、同実績4.02%）としている。また国際収支は基本的に均衡を目指し、個人所得の伸びもGDP並みとし、GDP 1単位あたりのエネルギー消費量は3.4%以上削減して主要汚染物質の排出量を引き続き減少させるなど、国民の生活や環境に配慮した数字も盛り込まれている。GDP比の財政赤字の目標は3%（額は2千億元拡大し2.38兆元）に据え置き、財政面での刺激策は継続するとしている。

一方、石炭や鉄鋼の生産能力の削減を継続的に実施するとし、17年の削減目標は、鉄鋼が16年実績6,500万トンに対し5,000万トン前後、石炭が同実績2.9億トンに対し1.5億トン以上としており、削減目標のペースはダウンしている。17年の目標は全般的に安定重視で、改革に関してはやや先送りともいえそうだ。

◆中国の対外経済協調姿勢をアピールする「一帯一路サミット」

活動報告に記載の5月開催の第1回一帯一路サミットは、習近平主席にとって国際協調の成果の目玉として国内外にアピールする格好の舞台といえる。一帯一路戦略を支えるアジアインフラ投資銀行（AIIB）も17年1月で開業1年が経過した。3月には創設メンバー57カ国に加え、カナダ、香港など13カ国・地域の加盟が追加承認され、あわせて70カ国・地域に拡大し、日米の率いるアジア開発銀行（ADB）の67を上回った。AIIBの融資実績は初年度9件、17.3億ドルとなりオマーン、パキスタンなど7カ国のインフラ整備向けである。ADBや世界銀行などとの協調融資が主力で、その点で透明性も確保されている。ADBによると、アジアのインフラ需要は16年からの15年間で26兆ドル（約3,000兆円）といわれる巨大市場で、同サミットは世界が注目するイベントになりそうだ。 【森山博之】